

Refresh!!

No. 58

2020年10月31日発行

TAKE FREE

特集

コロナと脳卒中と
心房細動のはなし



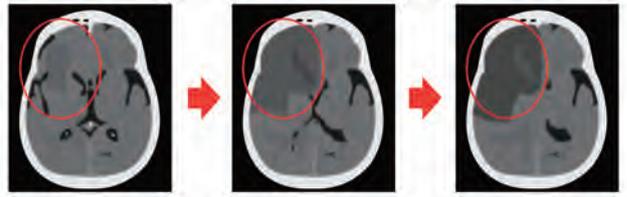
コロナと脳卒中と 心房細動のはなし

脳神経外科医師 金子 庸生

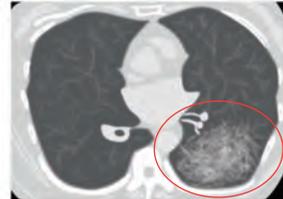
新型コロナウイルス感染症(COVID-19以下コロナ)により我々の生活が脅かされ、生活様式を変えざるを得なくなつてから久しい。このコロナでは発熱と呼吸器症状(咳や痰、咽頭痛、息切れ等)が主症状とされるが、嗅覚味覚障害も取り沙汰されており、コロナの末梢神経症状の一つと考えられている。4月の時点での中国武漢の報告では味覚・嗅覚障害は各々数%の頻度で出現し、その他頭痛が13%、眩暈が17%の頻度で見られ、これらを含め脳や神経関連の合併症は入院患者全体の36%に出現したという。しかし脳や神経関連の合併症の中で最も怖いのは、脳血管に出来た血栓に由来する脳梗塞や脳血管の破綻で生じる脳出血など「脳血管イベント」である。

6月末の英国からの報告では、神経合併症に精神状態の変化すなわち人格や認知・行動・意識の急激な変化も含めて検討した結果、神経・精神的合併症のうち約62%が脳血管イベントすなわち先の脳梗塞や脳出血に由来した症状であったとされる。この様なコロナの脳血管イベント発症は最近では「血栓症」すなわち血管が血栓によって詰まる事に起因すると考えられており、当初コロナ肺炎と考えられていた呼吸器症状も、実は肺血管の血栓に由来する可能性が指摘されてきている(肺のCT・メロンの皮様所見＝肺血栓症や血栓症でも出現)。

脳梗塞患者の頭部 CT イメージ：日ごとに悪化する脳浮腫



コロナ患者胸部 CT イメージ



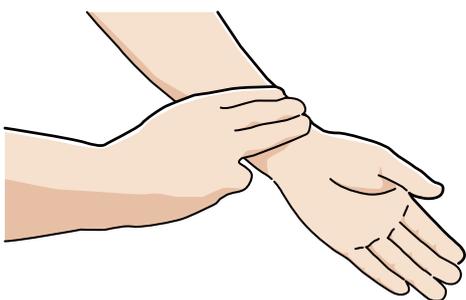
「メロンの皮」様初見
↓
肺血管の血栓?

となる事も少なくない。高齢になる程に心房細動の有病率は上昇する事が知られており、発症すると死亡や寝たきりの原因ともなり、それ故特に超高齢化社会に於いては脳卒中予防の観点からも、また医療経済の面からも「心房細動への対応」が非常に重要となる。

「心房細動への対応」として我々が直ぐにでも出来る事を考えると、それはまず「脈を取る、みる」事であろうか。医療従事者は出来る限り患者さんの脈を確認し不整脈特に心房細動の検出を心掛け、また患者自身も日頃自分で自身の脈をチェックする「自己検脈」を行い、この双方向性の心房細動スクリーニング習慣を継続する事の重要性が強調されている(脳卒中予防への提言 第四版 日本脳卒中協会)。

その背景には、心房細動を有する脳梗塞救急搬送患者の7割が、心房細動による血栓形成を予防する「抗凝固療法」を受けていないという事実、すなわち心房細動の診断に至っていないか診断されても抗凝固治療が未施行という報告が最近でも依然として続いている現実がある。

心房細動による脳卒中は、社会全体として継続的に取り組む必要がある医学的な課題である事は全くコロナと同様である。



脈を取る (診察時に⇨自分で)

NEW COMER

—— 新任医師紹介

ありますがよろしくお願ひ致します。



整形外科医師 瀬戸嶋佑輔

10月よりお世話になります。医師5年目、整形外科1年目の瀬戸嶋佑輔と申します。出身大学は群馬大学です。足りない所があるかと思

萩市および周辺地域のお役に立てるように頑張りますので、よろしくお願ひ申し上げます。



外科医師 塚本俊太郎

医師12年目の塚本俊太郎と申します。消化器外科を専門としています。10月から高萩協同病院の外科の一員として勤めさせていただきます。高

すので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



内科医師 前沢洋介

水戸協同病院から参りました医師3年目の前沢洋介と申します。3ヶ月という短い期間ですが、少しでも皆様の力になれますよう努力いたします。



内科医師 梶原知巳

10月から3か月間お世話になります。高萩の医療に少しでも貢献できるよう微力ながら精進させていただきます。よろしくお願ひ致します。

高萩協同病院の施設紹介

「4階東病棟のはなし」

Facilities

4階東病棟は急性期の女性病棟として産婦人科をはじめ、整形外科・内科など様々な診療科の患者さんが入院しています。温かい雰囲気の中で患者さんが安心して入院生活を送ることができるようにサポートさせて頂いております。また、産婦人科に関しては、昨年457件の分娩件数があり、たくさんの生命が誕生しております。先日、出産されたママより「思い描いていたお産ができて良かったです」とお話し頂くことが出来ました。私たちスタッフ一同は、ママが希望しているお産が体験できるような関わりと、女性にとって出産という素晴らしい経験が感動で迎えられるように、県北地域の産科医療を支える一員として、これからも努めて参ります。



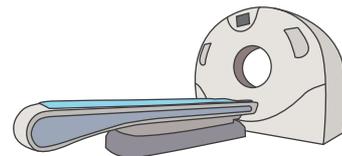
Dept 「放射線部のはなし」

高萩協同病院の部門紹介

当院の放射線部では放射線技師8名受付1名で業務を行っています。

当院で行っている検査を紹介します。一般撮影検査：胸部、腹部や全身の骨をデジタルシステムで撮影しています。CT検査：64列の検出器を搭載しており詳細な画像が短時間に、より少ない被ばく量で撮影できます。MRI検査：3T（テスラ）の高磁場と電波を使った断層装置で通常の装置より短時間で鮮明な断層画像が撮像できます。マンモグラフィ検査：断層撮影機能を持つ装置で検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師の資格を持つ女性技師2名で検査を行っています。X線TV検査：胃や大腸などの消化管検査、脊椎造影など様々な検査を行います。骨密度検査：当院では微量なX線を用いたDEXA法（デキサ法）にて骨密度検査を行っています。DEXA法は他の骨密度測定方法と比べ非常に測定精度が高いのが特徴です。血管撮影検査：造影剤を使用して血管を撮影し様々な病気を診断する検査です。以上が主な検査です。

放射線部では、患者さんに安心して検査を受けていただけるようわかりやすく説明をし、専門職として質の高い医療を提供することを心がけています。いずれの検査でも被ばくをできる限り低減するように留意しています。その他、被ばくの相談も行っておりますので何かわからないことがあれば放射線技師に気軽に声をかけて下さい。



「患者サポートセンターのはなし」

高萩協同病院の部門紹介

～入院支援～

入院を予定している患者さんが入院生活や入院後にどのような治療過程を経るのかをイメージし、安心して入院医療を受けられるよう事前に説明しています。入院中に行われる治療や入院生活に関するオリエンテーション、服薬中の薬の確認、褥瘡・栄養スクリーニング等を、入院前の外来において実施し、支援を行わせていただきます。手術や検査によっては、休薬が必要な薬もありますので、持参していただいたお薬手帳をもとに外来・入院支援でダブルチェックを行っています。また、入院前の生活についてお話しを伺うことで、早期に他職種との情報共有ができ、入院直後からスムーズな治療を受けていただけるよう努めています。当院への入院が初めての方は、お部屋の環境や持ち物、入院費用など分からないことも多いと思いますので、お気軽に質問していただければと思います。

～社会福祉士～

外来通院、入院における心配なことに対し社会的な面からサポートをします。

主な相談内容としては

- 1) 退院に関する相談・・・退院先、在宅療養の調整（介護保険の紹介、介護保険サービスの調整）
- 2) 経済的問題に関する相談・・・医療費、生活費の不安
- 3) 社会福祉制度に関する相談・・・身体障害者手帳、特定疾患など

相談があるときは、直接1階の患者サポートセンターに来所いただくか外来、病棟の看護師を通しての相談を受け付けています。また、医師や看護師から紹介させていただくこともあります。必要に応じて他部署や公的機関、施設等と連携を図らせていただきます。

患者様が疾病から生じる社会的な問題について解決が図られるようお話しを伺いながら対応させていただきます。



10月7日に“コロナと闘う医療従事者へ”
と【茨城県常陸牛振興協会】様より厚生連6
病院へ常陸牛の贈呈がありました。当院では
お昼の職員レストランで【すき焼き】となり
ました。柔らかくて、甘みがあって、あっ
という間になくなってしまいました。
ありがとうございました。



発行所：県北医療センター高萩協同病院

発行人：近藤 匡

編集：広報ふれあい委員会

編集協力：協同メディカルサービス株式会社

〒318-0004 高萩市大字上手綱字上ヶ穂町 1006 番-9

Tel：0293-23-1122 takahagi-kyodo-hp.jp/